令和５年度学校教育目標「『笑顔』いっぱい　長松小」　文責　校長　多貝

長松小学校　学校だより　　R６年２月８日発行

えがおいっぱい 117号

夜空をみあげて

天の海に　雲の波立ち　月の船
星の林に　漕ぎ隠る見ゆ

飛鳥時代の柿本人麻呂の歌です。意味は「天空の海に雲の波が立つ中を　月の船が星の林の中へと　こいでかくれていく」というものです。夜空を海原に例えた歌です。1500 年前の人のうたにも現代につながるものが流れています。

今は星空がかがやいています。夜はオリオン，明け方は夏のさそり座がみえます。天体観測が趣味という訳でなく，犬を飼っていて散歩に行く機会が毎日あります。夜空や明け方の空をみあげて，今日を迎えた感謝を思います。毎日が当たり前のように過ぎていきますが，決して次の日を迎えることは当たり前ではないと最近は感じています。

夜空を見上げて，「星が美しいこと・生きていること・感謝」を思っています。

なんか 2 日目で会いたくなりましたね

閉鎖中の担任との会話です。

タブレットで近況を知った。熱が上がったり下がったりしていることを子どもたちから聞いた。それが引き金となり子どもたちに会いたいという思いが大きくなったとのこと。

休んでも担任は子どもたちのことを考え，思っています。

明日，会える子どもたち。先生達は「あなたに会いたい」と思っています